

JET からの手紙

ひとことの力
言語に関係なくつながりたい広島県立祇園北高校 外国語指導助手
Chloe Gust (クロイ・ガスト)

始まり

私の日本への旅は普通ではありませんでした。私は2019年の10月に外国語指導助手（ALT）に応募しました。2020年3月、新型コロナウイルス感染症の影響で訪日が数カ月遅れるかもしれないという条件で合格しましたが、実際に私が日本に到着したのは、応募から2年後の2021年11月でした。当時の私はフルタイムで働き、家族の世話をするのに忙しく、事前に語学の学習には手が回らず、いざ行ってみると分からないことばかりで、どうやって生きていけばいいのだろうという状態でした。

言語を持たない ALT

できるだけ多くの方法で世界を見てみたい。それがJETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）に応募した理由です。世界の多くの場所が遠く閉鎖的に感じられたコロナ禍後に、私の目標はより明確になりました。



祇園北オールラウンドコミュニケーションフェスティバル2023で生徒や先生たちと撮った写真

した。広島県立祇園北高校に配属になったことは、とても幸運でした。言語の違いから、日々何が起きているのか理解できなかったにも関わらず、先生も生徒も私を温かく迎えてくれました。

ALTとしての仕事には、授業計画を立てて生徒を指導したり、英語部の活動を支援したり、教育委員会と協力してスピーチ大会で審査したりするなど、さまざまなことがありました。

ブロックリーダーになり企画したイベントでは、地域の他のJET参加者のサポートを行いました。生徒や同僚に会うたびに彼らの優しさに感動し、周りの人たちとつながりたい、日本語を学びたいと強く思いました。日本語を学ぶには多くの努力が必要でした。生徒の前で話している時、「英語は難しい」ではなく「英語はとてもむらさきだ」と言ってしまうなど、間違えることが何度もありました。ただ私は、自分自身がそうであるように、間違いは新しい言語を学ぶことの一部であると生徒たちに常に示そうとしてきました。

小さな努力にも結果が出る

それから何かがゆっくりと変わり始めました。お店でお金を払う時に数字が理解でき、生徒と天気の話ができ、誰かの道案内に従うことができました。たったひとつの単語を覚えるたびに、周りの人たちと話すための100の扉が開かれるような気がしました。そして広島弁に興味を持つようになりました。広島弁に恋をしたと言うべきかもしれません。

一耳惚れ

広島弁で最初に耳にした言葉は「ぶち」でした。「と



英語部で8月6日に広島平和祈念公園でインタビューをした時の写真

ても」や「めっちゃ」という言葉を覚えた頃、同僚の先生が『「ぶち」とも言うんだよ」と教えてくれました。

それから私は、周りの人に広島弁で好きな言葉を教えてもらうようになりました。「だから」の代わりに「じゃけえ」、「めんどくさい」や「つかれた」の代わりに「たいぎい」などさまざまな言葉を知り、日本語を知識として学ぶだけでなく、多くの会話を始めることができるようになりました。旅行先では、関西や九州、沖縄出身の人の方言を聞いたり、日本語のスラングや若者言葉を学んだりしました。私と日本との間にあった越えがたい壁が、言葉によって取り除かれていきました。

私の最大の教訓

私が体験から得た最大の教訓は「言葉一つでつながりができ、どんな小さな努力でも報われる」ということです。私はしばしば、目標とする言語を使えるようになるにはまず一定のレベルに達する必要がある、話す前に完璧にならなければならない、と自分に言い聞かせていました。しかし、それは不可能であり、上達する唯一の方法は間違いを犯しても積極的に話すことだと気付きました。自分が不完全な日本語話者であることを受け入れた時、それでもスラングや方言を取り入れて、言葉を楽しめるようになりました。今は、生徒、同僚、友人たちと一生続く関係を持てることをうれしく思っています。

今後について

将来は記者として人脈を築いていきたいと思っています。私の夢は、世界中を旅して、人々とつながり、彼らのストーリーを共有することです。JET プログラムでの経験から、私は人と人のつながりの力に気付くことができました。相手の使う言語の単語を一つでも覚えようとすれば、ほんの少しでも努力すれば、きっとつながることができると思っています。



2024年の春、着物を着て山口県で撮った写真

プロフィール



Chloe Gust (クロイ・ガスト)

カナダのサスカトゥーン生まれ。2019年にレスブリッジ大学で言語学を副専攻とする英文学の学位を取得。JET プログラム終了後は、世界中の人々とつながり、重要なストーリーを伝え続けることができるジャーナリズムの道に進みたいと考えている。